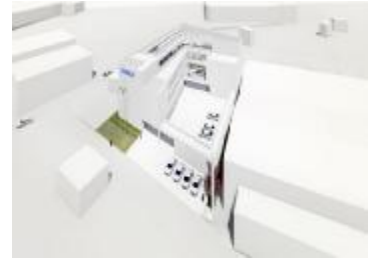


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新晃工業寝屋川事務所	階数	地上3階、塔屋1階
建設地	大阪府寝屋川市宇谷町	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年11月5日
敷地面積	2,216㎡	作成者	森田 昌弘
建築面積	1,151㎡	確認日	2018年11月5日
延床面積	2,815㎡	確認者	粕谷 敦



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

**LR のスコア = 4.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギーに配慮した小規模冷温水空調システムの導入</li> <li>空調機器更新などを見据えたフレキシビリティを確保</li> <li>空調熱負荷に配慮した外皮計画</li> </ul>		
<b>Q1 室内環境</b> ・冷温水4管式系統を有し、フレキシブルなゾーニングに対応 ・室内CO <sub>2</sub> センサーによる濃度監視、外気量変風量制御(オフィス・ショールーム・打合コーナー)	<b>Q2 サービス性能</b> ・事務室についてはOAフロア高さを600mm確保、天井高3,000mm確保し、サービス性能を高めている ・屋上機械置場は余剰スペースやメンテナンススペースを大きく確保し、フレキシビリティに配慮している	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・建屋周囲及び、前面道路境界に庭を設け緑化面積の確保に配慮した。 ・前面道路側には柵等を設けず、緑地がそのまま敷地周辺へ解放されることを意図した。
<b>LR1 エネルギー</b> 自然採光及び明るさ検知機能付きの照明制御、中間期等を想定した自然換気窓の設置を行っている(オフィス・ショールーム)	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 積極的に省水型器具を採用している。 建屋全域においてリサイクル材料の使用、有害物質を含まない材料を使用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 雨水抑制のための外構に雨水貯留槽を設置。 グレア対策の実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0098

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	新晃工業寝屋川事務所新築工事					
	建設地	寝屋川市宇谷町					
	用途/区分	事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					S	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

## エネルギー消費量の報告

報告しない

### 【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.3	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	4.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	5.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

### その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		